

白山中学校で認知症サポーター養成講座が開催され、1年生がクイズや寸劇を交えて認知症について勉強しました。

講師は津一志包括支援センターと津市社協白山支部の職員→



白山町の人口10,595人 高齢者4,334人 高齢化率40.9% (令和2年1月現在)

認知症とは

認知症は、誰にでも起こりうる「脳の病気」によるもので、高齢になるほど認知症になる可能性は高くなります。認知症になると、いろいろな原因で脳の働きが悪くなってさまざまな障がいが起こり、生活する上で支障が出てきて、それまでできていたことができなくなったりします。

白山町 白山中学校 認知症サポーター養成講座



講師と先生による寸劇



↑寸劇を見て良い対応案をグループで検討中↓



対応案を上演中

「手伝いましょうか」と声をかけて、助けてあげる。

その他の意見

- ・本人がゆっくりとできるように待ってあげる。
- ・静かに見守る。 などがありました。



認知症になると起きること

・脳の細胞が死んでしまい起こる症状 (治らない)

例えば、覚えられない・すぐに忘れてしまう・月日や年月、場所、人がわからなくなる・2つ以上のことが重なると理解できなくなる・しくみが目に見えない道具や新しい機械が使えない など

・心の状態や性格、環境によって出る症状 (まわりの人の助けがあればよくなる)

例えば、自信を失い、すべてが面倒に・将来への望みを失ってうつ状態に・トイレの失敗・道に迷って家に帰れなくなってしまう・など

認知症の人に接するときは・・・

心の状態や性格、環境によって出る症状は、その理由を考えながら、接し方を工夫すれば、症状を和らげたり、現れないようにすることができます。認知症を正しく理解し、さりげない見守りや声かけ、適切な手助けをしてくれる人がいれば、認知症の人でも自分でやれることが随分と増えます。認知症の人それぞれが抱える不安や苦しみを理解し、さりげなく自然に手助けしましょう。声かけをしたほうがいいと思っても、自分では難しいと感じたら、近くの大人に助けを頼みましょう。

生活支援
コーディネーター通信
※生活支援コーディネーターは地域のみなさんとともに地域での支え合いの仕組みづくりに取り組んでいます。



Vol.9

令和2年
2月7日

